

06. バッキオ宮殿、バッキオ橋



バッキオ宮殿は、シニョリーア広場に面し、1314年にフィレンツェ共和国の政庁舎として完成した。以来、広場と合わせ町の中心であり、現在は市庁舎として観光だけでなく市民の実生活でも使われている。建物は重厚感のある石積みで簡素なデザインとなっており、中央部で高く空に伸びる鐘楼が、広場の並びの建物との対比で非常に高揚感を感じ印象的であった。



バッキオ橋は、フィレンツェ最古の橋で、土台部分は1345年に完成した。その後メディチ家によって2階部分の私設回廊が造られ、1階の商店はその足元を埋めるように発展していった。橋を離れて眺める外観が特徴的で、眺めていると今でも1階部分が橋から溢れて増殖し、無限に広がっていくような錯覚を覚える。周辺の橋と全く違った発展を遂げたこの橋は、街を支配したメディチ家の通勤回廊下であり、周囲に群がる人々の野心や欲望がそのまま形になったようで興味深い。



現在、橋の上には宝飾品の店が並んでいる。中央部の一部を除き両側を商店で埋め尽くされたその佇まいは、知らずに渡ると橋だと分からないほど人々の熱気にあふれ、今もこれからも増殖を続けて行くように感じた。 (小島 京俊)